

事業優先順位	2 細事業: デジタルアーカイブ事業				整理番号	06				
目的	文化財資料をデータ保存し、活用する。									
目標	文化財資料をデータ保存し、活用するため、ふるさと歴史学習館収蔵の紺屋型紙400枚を撮影し、デジタル画像を得る。									
事業実施主体	委託	事業開始年度	平成19年度	根拠法令	河内長野市文化財保護条例第3条					
事業費・財源		平成25年度	平成24年度	比較		平成25年度	平成24年度	比較		
	事業費 (決算額) (千円)	231	231	0	コスト情報・従事職員数	総コスト (千円)	1,756	1,025	731	
	一般財源	181	218	-37		内訳	事業費	231	231	0
	国府支出金	0	0	0			人件費	1,525	794	731
	地方債	0	0	0			公債費	0	0	0
	画像資産使用許諾料	50	13	37		一人あたり (円)	16	9	7	
		0				世帯あたり (円)	37	22	15	
		0				参考	職員数 (人)	0.20	0.10	0.10
							再任用職員数 (人)	0.00	0.00	0.00
	今後の方向性	紺屋型紙等の市所蔵文化財資料をデジタル化した後は、デジタル画像の活用を図る。								
評価	妥当性	効率性	有効性	対象者		市民・市への来訪者				
	A	A	B							



紺屋型紙等の展示

## 細事業：デジタルアーカイブ事業

### 1. 河内長野市所蔵文化財資料のデジタル写真撮影及びデジタルデータ作成業務

ふるさと歴史学習館収蔵の資料を高精細デジタル画像化し、デジタル資料としても保存を図るため、デジタルアーカイブ※事業を実施した。

ふるさと歴史学習館収蔵 紺屋型紙 400点

河内長野市は、考古資料、民具など多くの文化遺産を所蔵しており、これらを後世に伝えるための維持・管理及び市民への公開などを含めた活用を図っていく。

これら市の所蔵品のうち、ふるさと歴史学習館に収蔵されている紺屋型紙※は、和紙で作られており、経年劣化は避けられない。そこで河内長野市では、紺屋型紙を写真撮影し、高精細デジタル画像化して保存し、データの活用を図っている。平成25年度は、紺屋型紙400点の写真撮影及びデジタルデータ作成を実施した。

※デジタルアーカイブ

…博物館、美術館等の収蔵品をはじめ、有形・無形の文化遺産等をデジタル化して保存等を行うこと。

※紺屋型紙

…江戸時代から地域にあった染物屋（紺屋）で主に「河内木綿」などの型染めに用いられた型紙のこと。

ふるさと歴史学習館は、河内長野市高向の紺屋に残されていた紺屋型紙約1,600点を収蔵している。

